

以前の神野の提言

街に人が出て、何かをする（含む消費）には、
“感性的な刺激”が大事！

中間領域を増やし、そこでの活動に自由度を

鍵となるのは、「面白いマインド」（好奇心）、
そして多様な在り方を許す「寛容性」

1

現在は、前提条件が変わってしまった。

変えられる条件と変えられない条件がある。
新型コロナ・ウィルスの感染拡大は、
現在においては「変えられない」条件

かなり厳しい条件...

なにせ人が外に出ないし、
大勢を集めることもできない。

2

美術館の意義

- ・ ~~集客施設としての価値~~
- ・ 「好奇心」「寛容性」を育む価値

入館者数に上限を設けざるを得ない。
森美術館で「塩田千春展」に66万人などというこ
とは、現状では不可能。
集客施設として美術館を位置づけることの難しさ。

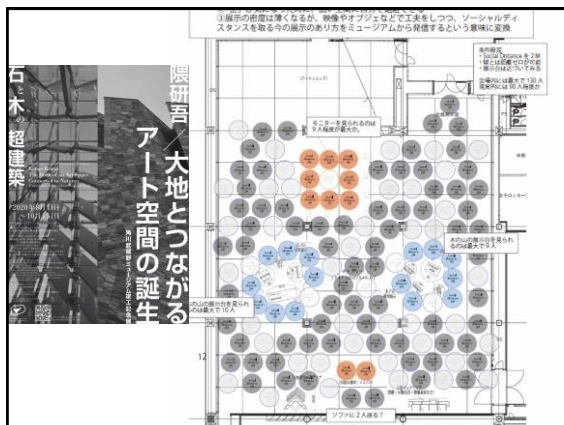
※入館料、施設維持・運営費等の大きな課題。

3



角川武蔵野ミュージアム 2020年8月1日プレオープン

4



5



6

前提が変化したなら、それを踏まえて、

再定義→再デザイン

この状況をクリエイティブに解釈し、今まで気づいていなかった、やれていなかったことに取り組む好機ととらえるべき。

東京藝術大学美術館「あるがままのアート展」で、クリエイティブ・スタジオ Whatever Incが行った”ロボ鑑賞会”



7



アートの鑑賞に「他の人とコミュニケーションすること」はとても重要であったのに、日本では「しゃべってはダメ!」「正解が言えないと恥ずかしい。」などにより、アートを通してコミュニケーションを図ることは活発ではなかったが、この仕組みで周りを気にせずワイワイガヤガヤ作品について語り合うことが可能。

・「好奇心」「寛容性」を育むことには貢献できる!

8

自分たちが扱っているものやことの、魅力は何か? 価値は何か?

それを再定義して、今まで日の目を浴びなかった側面や・要素を前面に出すことは今しかできないかも。

コロナ明けでも、それは強みになるかもしれない。

9